

LEADERSHIP CHALLENGE

大隈塾LCレポート vol.08

大隈塾リーダーシップ・チャレンジは11月14日（土）、ワークショップ「グローバル・コミュニケーション」を行ないました。

講師の本間正人先生は、コーチングやファシリテーション研修の第一人者。ほとんど日本語を使っただけのグローバル・コミュニケーション、英語は自分たちが知ってる単語がいかにグローバル・コミュニケーションに使えるか、という実証実験のようなワークショップでした。

まず、「グローバルってどういうこと？」から始まります。

- ・心が広い
- ・多様性（違い）を受け入れられる



この定義が実は、＜今まで自分が勉強してきた方法、勉強の仕方、勉強そのもの＞の多様性（違い）を見直すことにつながります。

- ・教育（teaching）
- ・学習（learning+coaching）

<teachingからlearning+coaching>

このあたりで、どうしても強く意識していた「グローバル＝外国人、外国文化」の呪縛が解かれ、「グローバル＝一人じゃなくて、いろんな人と」という方向に考えが変わってきます。

次に、「コミュニケーションってどういうこと？」

- ・相手への理解を深めることで、自分への理解も深まる



→先入観や固定概念、思い込みを減らしていきます

- ・人間関係に影響を与える

→むしろ「非言語」=表情、動作、声のトーン、視線、距離の影響力が大きい

- ・信頼関係を築く

【ブラインド・ウォーク】をやったことがありますか？ 2人1組のペアになって、1人が目をつぶり、もう1人がその人を誘導して歩いてもらう、というアクティビティです。

・「もうちょっと右」=見えてない人にどれだけ「もうちょっと？」

・「ここで左に」=急に指示を出されても困ります

- ・「5m先に階段がある」=Aさんには12歩が5m、Bさんにとっては10歩が5m

- ・目をつぶっていても光と影がわかる→不安になる

→信頼が大切→コミュニケーション量を増やす

いいコミュニケーションとは、「なにもないときにとるコミュニケーション」。問題が起こったときにコミュニケーションをとるのは当たり前であって、現状（いまどこにいるのか）、目標（どこに行こうとしているのか）を結びつけて、目標=ビジョンを持っていない人にビジョンを示し、伝え、共有する。リーダーシップの基本が【ブラインド・ウォーク】にありました。

こうして講義+アクティビティを繰り返すこと7時間。お昼ごはんやコーヒープレイクをはさみながらでしたが、まさに「あっという間」でした。大隈塾のメンバーそれぞれが職場に持ち帰って、翌日から実践できるワークショップとなりました。

【受講生のレポートより】

幼少時代をアメリカで過ごしたため、英語自体には問題は感じていなかったが、日本に帰国してから感じる日本で育った日本人の英語に対する考え方や、そもそものコミュニケーションの取り方について新たな学びがあり非常に有意義な一日であった。

=====
ブラインド・ウォークでは、先（方向）を示すこと、ゴールまでの距離（step）を示すこと、単なる直線であっても、「そのままが良い」、という声掛けが有ると無いのでは全然印象が違う。ビジョンを示すことを、そこに至るまでのチェックポイントを設けること、問題無く事が進んでいても、都度進捗確認も含め声を掛けること、リーダーシップやマネジメントの要諦と共通することを、身を持って体感できた。

=====
まず、ペアワークや米国のTV番組の視聴を通して、表情、声のトーン、視線といった、非言語以外の要素が、コミュニケーションにおいて大変重要な役割を果たすことを学びました。何よりも先生の講義は、迫力とエネルギーに溢れており、非言語コミュニケーションの表現が豊かで、身を持ってそれを実感致しました。授業で接した先生のエネルギーは、まだ記憶に残っていますので、その記憶を頼りにロールモデルにさせて頂き、日々の打ち合わせの時から、非言語以外の表現を磨いていくようにしていきたいと思えます。

=====
アイデンティティ・ポートフォリオによると、私個人は「会社員」としての存在をほぼ認識していないことがわかり、我ながら笑ってしまった。新たな気づき！（もっと仕事人間だと思っていたが、どうもグループワークの雰囲気そう思わせた気がする。）



=====

英語学習方法に悩んでいる私にとって非常に有益なお話を聞くことができました。現在の日本の英語教育は先生が教えるが中心である「英語教育」であるが、学習者が自ら学ぶ「英語学習＋コーチング」が重要で、その活性化の為に英語を学ぶ事でどんなメリットがあるのかというVisionを見せて、目的意識を持って楽しく取り組むことが重要であるとの考え方に大変共感しました。

=====

グローバルとは多様性に対して寛容であり、決め付けないことであるが、それをコミュニケーションとして表出させた場合、“心が広い”と本間先生が定義されてことが興味深いと感じた。

=====

記憶（海馬）は感情（扁桃体）と強く結びついている、という冒頭の話が体現している講義であったと思います。これまでの各講師に比べ、内容自体の重要性やインパクトは弱いと思いますが、本間先生の講義手法によって、最も印象に残る授業となった気がします。

=====

英語を学ぶ目的を話し合ったのは、自分達がやっていること、やらなくてはいけないことの目的出しをする、いい例で楽しかった。また英語自体も本当に勉強したい！と思えた。

大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポート vol.08

2015年11月30日発行（通算19号）

大隈塾事務局（一般社団法人ストーンスープ）

村田信之 mura@ta2.so-net.ne.jp

169-0051 東京都新宿区西早稲田1-9-19 アーバンヒルズ早稲田207

tel:050-3558-7527 mail:ookuma_school@stonesoup.tokyo

（このレポートのすべての文章に対する責任は大隈塾事務局にあります）